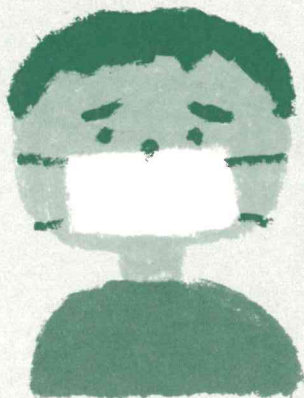


〈緊急取材〉

5〜11歳のワクチン接種スタートを受け

幼児の 新型コロナ ワクチン どう考えたら？



新型コロナウイルス用のワクチンが、

5〜11歳の子どもにも接種可能になります。

読者からも質問が多い、子どものワクチン接種について、さまざまな角度から考える手掛かりをいただこうと、おふたりの医師を緊急取材しました。

2022年2月現在、オミクロン株による感染者が過去最高を更新しているなかでの取材です。

このあとの情報もぜひ積極的にチェックしながら、子どものワクチンについて、よりよい判断の指針にしてください。

重症化率が低い健康な子どもは 接種の優先順位が下がります

お話し 森内浩幸さん

（長崎大学大学院
歯薬学総合研究科教授・
日本小児感染症学会理事長）



もりうち・ひろゆき 長崎大学大学院歯薬学総合研究科・小児科学教授。1990年代に米国国立衛生研究所へ留学しウイルス学、とくにHIVの研究に従事。母子感染など、子どもの感染症の専門家。2021年から日本小児感染症学会理事長。

重症化リスクの高いひとを優先すべきタイミングです

編集部 幼児の新型コロナワクチンについての基本的な考え方をおしえてください。

森内さん 一般論として、ワクチンには本人が発症や重症化しないためという側面と、公衆衛生的見地から社会での感染の広がりを防ぐ

という目的があります。乳児や医学的理由で接種できないひとを守るためにも、「集団免疫」が必要、という考え方になります。ただその場合、該当のワクチンに感染予防効果があることが条件になります。

しかし、現在流行の中心となっているオミクロン株になり、従来のワクチンの感染予防効果があまり期待できなくなっています。こうな

子どもへの接種 「待った！」

お話し 長尾和宏さん
（長尾クリニック院長）



ながお・かずひろ 兵庫県尼崎市にある長尾クリニック院長。「町の医者」として、在宅医療はじめ地域医療に携わる。日本尊厳死協会副理事長、日本ホスピス在宅ケア研究会理事。著書に「ひとりも、死なせへん」（ブックマン社）ほか多数。

*「記録映画『ワクチン後遺症』：協力／後遺症で療養中の患者さんたち、「コロナ前」の暮らしを取り戻そう！市民の会製作／「記録映画『ワクチン後遺症』製作委員会 配給協力／渋谷プロダクション <https://vaccine-kohisho-movie.com/>

ワクチンのデメリットも
充分議論すべきです

編集部 長尾さんは、子どものワクチン接種には基本的に反対を表明されていますね？

長尾さん わたしの病院には、コロナワクチン接種後に体調を崩し、学校に行けなくなった子どもが治療に訪れています。わたしはこれを「ワクチン後遺症」と考えています。イベルメクチンの投与で一時的によくはなるのですが、またもとに戻るといって状態が続いています。

保護者は「よかれ」と思って接種させたのですが、とても後悔されて

います。こうした実情を知っている者として、自分には社会に警鐘を

鳴らす役割があると考えています。今回の子ども用ワクチンは、十分な治験もない状態です。こうしたものを、ほとんど重症化しない健康な子どもへ、同調圧力も含め強制してはいけなさと考えます。

ワクチン後遺症については、メディアもなかなか取り上げないの*で映画をつくりました。子どもへのワクチンの是非については、もったいなくと社会全体で議論すべき問題だと考えています。ぜひみなさんも、ご自分で、考えてみてください。

ると、子どもたちが接種して流行を防ぐ、という意義はかなりちいさくなっていると考えられます。ただ、重症化を防ぐ効果は充分あるので、風邪がいのちとりになるような持病のある子どもにも、ワクチン接種ができるようになることについては、わたしは大歓迎です。

一方、もともと感染しても重症化しにくく、死亡例の出ていない15歳未満の健康な子どもたちへの「重症化を防ぐワクチン」の接種は、医学的な優先順位は低いと言えます。接種のメリット（重症化予防）はわかりにくく、デメリット（副反応）は目立つので、保護者は迷われるでしょう。過去にワクチンや薬剤でアレルギー反応を起こした子の場合なども、保護者は迷われるでしょう。保護者は、かかりつけ医と相談しながら、子どものためにどうすべきかを考える必要があります。もちろん、重症化のリスクの

あるひとが同居しているから、少しでも家庭に持ち込まないようにと考えて、接種を選ぶ場合もあるでしょう。一方、社会としていま急ぐべきは、高齢者らリスクの高いひとの3回目接種なのです。

編集部 子どもの重症化リスクはどう判断したらよいですか？

森内さん まず、その子をよく知っている主治医に相談するのがいちばんです。接種前の十分な診察と接種後の体調管理を行う体制が必要ですよ。そうした環境を整えるには、主治医の協力が欠かせません。

編集部 子どもが感染した場合、やるべきことは何でしょうか？
森内さん いま12歳未満に投与できる抗ウイルス薬はないので、新型コロナと診断がついたところで、もともと健康な子どもには対症療法しかありません。なので、ようすを見て、かかりつけの医師に相談するということが充分だと思います。

月刊

クレヨンハウス

2022年3月3日発行・発売（毎月3日発行・発売）
第27巻4号 通巻401号 1987年4月2日
第3種郵便認可ISSN1342-1328

クローヨン

2022 **4**
990円（税込）



【第一特集】

ウィズコロナ時代に役立つ

子どもができる

セルフケアの知恵

【第二特集】

コロナ禍に

終末期を考える

育児世代が

増えています